

姫路大学大学院看護学研究科 Newsletter No. 6



《 With コロナの時代に研究を進める 》

看護学研究科教授 西村 伸子

《 博士前期課程 「修士課程」における研究の意義を考える 》

看護学研究科教授 藤野 文代

《 トピックス 》

《 大学院生の声 》

博士前期課程 1 年生 藤原さおり

《 大学院入学試験のお知らせ 》

《 With コロナの時代に研究を進める 》

看護学研究科教授 西村 伸子

国内にコロナウィルスが拡大して、約2年になる。この間に私たちは生活様式だけでなく、感染に対する意識変化も大きい。On Lineによる授業、会議は今では違和感なく実施されている。他大学や施設の方々との打ち合わせは、現地に行かなくても手軽にできる。コロナ禍で得たものは、On Lineで簡単につながることだろう。コロナ禍までは今のよう遠方の方々と、こんなに簡単に打ち合わせができるとは考えていなかった。



国内外の学会の多くがWeb上での発表になった。それには、On Lineの環境を整えることも必要であり、使う側の知識も必要で、慣れるまでには混乱もあった。一方、現地に集まるからこそできる会場の雰囲気や発表の緊張感を感じる、久しぶりに会える知人との会話、開催地を訪れ、巡る楽しみなどはできなくなり、学会に参加した感は薄くなった。

With コロナ禍で研究するには、ある程度の制限が生じる。看護学領域での研究は、多くは人が対象であり、対面でなければできないこと、感じられないことが多い。インタビュー一つにしても、On Lineでは限界があり、触れられる距離で相手の話しに耳を傾けると、身近に表情や声のトーンなどが直接伝わり親近感が持て、より深い話が聞ける。施設や病院などがフィールドである場合には、面会制限から適切なデータが得られないことも生じる。現在、私たちのグループで進行中の研究においても、グループワークをOn Lineで進めている。それなりに有意義なディスカッションになっているが、やはり、対面だったらもっとよかったのではないかとの思いがぬぐえない。

コロナ禍だからこそ「今でしょっ」といった感じで、コロナ感染に関する看護の研究は1万件以上にのぼり、実習など教育機関を対象にしたもの、看護職を対象にしたもの、緩和ケア、救急医療など様々な視点から研究発表がある。トピックスをタイムリーに研究するのも大切だと思う。しかし、これまでの蓄積されたスキル・知識がないとトピックスをすぐに取り入れるのは難しい。やはり、普段から極めたいテーマや課題を研究として取り組むことが自分自身の知識につながるように思う。

大学院前期課程の学生には、大学院を修了した成果物として、学会での発表を現地で経験してほしい。特に修士を修了して、学会発表の経験がない学生には、学会会場の雰囲気や大勢の前で発表する緊張と達成感をぜひ、体験してほしい。発表を機に来年も研究発表したいという、研究に対する刺激を必ず感じると思う。

先日、ある学会から次年度の学会のお知らせが届いた。次年度は、会場での発表とWebでの参加のハイブリッド方式になっている。少しずつ対面方式が取り入れられてきているが、早く以前のようなアカデミックでにぎやかな、緊張感ある学会が開催されることを願う。

《 博士前期課程 「修士課程」 における研究の意義を考える 》

看護学研究科特別特任教授 藤野文代

筆者は約 20 年間、大学院において修士課程の院生を指導してきた。そして、院生が学位を取得した後、学会集会等で発表し、さらに修士論文が学会誌等に掲載されるよう支援してきた。ここでは発表した修士論文を紹介し、研究の意義を考え述べる。未発表の修士論文もあるが、これまでに学会誌等に掲載された論文を一部紹介する。姫路大学大学院看護学研究科論究 2022 年 3 月号に掲載された論文の概要を報告しているが、2003 年「喉頭摘出患者の失声の受け入れに関する検討、他」2005 年「女性生殖器がん患者の家族への思い」2009 年「乳がん患者のボディ・イメージの変容と感情状態の関連」2012 年「外来化学療法を受けているがん患者の家族の体験」他 11 件である。



筆者は 3 年前の 2019 年、博士後期課程開設時から本学に着任した。翌年 2020 年、博士後期課程に在籍している担当院生の博士前期・修士課程における論文「2 型糖尿病にがんを併発しがん化学療法を行っている患者の体験」と 2021 年「介護老人保健施設における利用者への看護師および介護福祉士の生きがい支援の体験」が、看護学研究科論究に掲載された。さらに付け加えると、これらの論文は既に他の研究者により先行研究として引用されている。院生にとって自分の研究論文が引用されることは初めての喜ばしい経験であり、今後の研究への取り組みの励みになる出来事である。

研究論文には独創性、新規性、客観性、一般化可能性が求められる。文献検討、倫理審査の承認は当然のことであるが、研究結果から新しい知見や看護実践への示唆が得られ、看護学上の意義があることが求められる。先述の掲載された論文はこれらの条件に該当していると考えられる。

院生は研究論文としてまとめ合格し単位取得すれば、修士「看護学」の学位を得ることができる。それは研究生活の始まりで、その後も指導を受けながら、専門領域の多くの研究者に読んでもらえると幸いである。

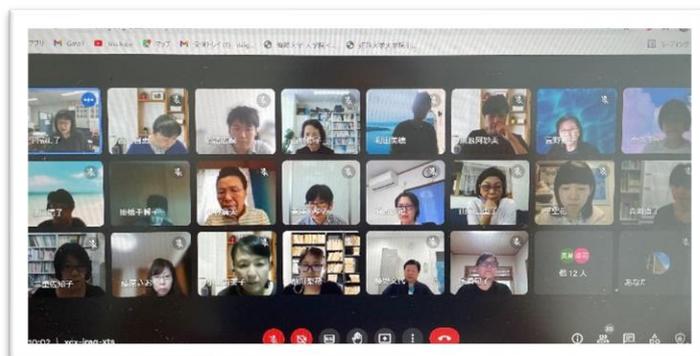
博士前期・修士課程における研究は原点であり、さらに研究を発展させることは意義があり、それを期待している。

博士前期・修士課程における研究は原点であり、さらに研究を発展させることは意義があり、それを期待している。

《 トピックス 》

博士前期課程中間発表会の開催

博士前期課程の第3回中間発表会が9月18日(土)10時からオンラインで開催され40名が参加し、2年次生2名が発表しました。社会人学生2名は、コロナ禍で仕事も大変な中、修士論文の作成に向け発表を行いました。



博士後期課程研究計画発表会の開催

博士後期課程1年生2名が10月9日(土)13時30分から研究計画をハイフレックスで発表しました。予定の終了時間が過ぎるほど質疑応答が活発に行われました。発表した研究計画に対して、いろいろなアドバイスがあり、これから質の高い研究に向け取り組んでいけることと思います。



第1回姫路大学大学院FD研修会

11月6日(土)10時から11時30分まで、「本学の契約ツールを用いた文献検索の方法」というテーマで、HYFLEXにより研修会を開催しました。図書館の司書の方から詳細な内容を説明していただき、アンケート結果は「大いに参考になる」、「参考になると」という回答が大半を占めました。



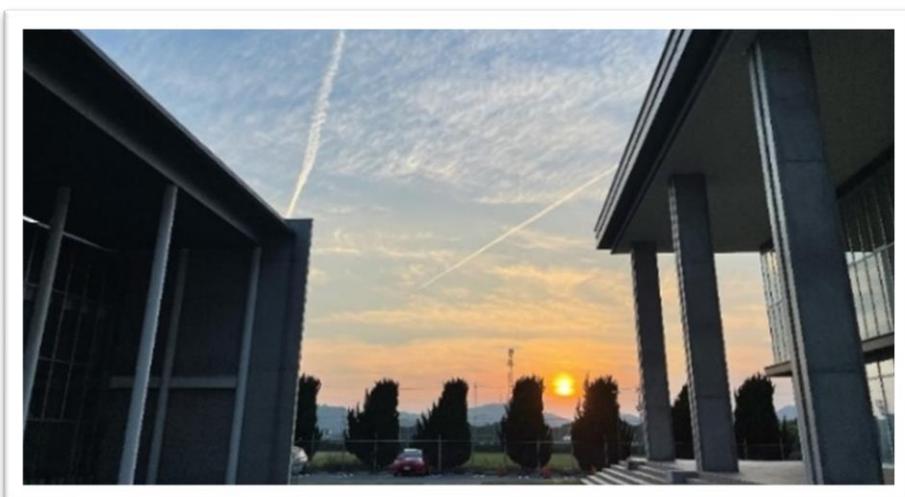
博士前期課程中間発表会の開催

博士前期課程の第4回中間発表会が12月4日（土）13時から開催され、1・2年次生8名が対面で発表しました。大学に来れなかった参加者はオンライン参加で聴講しました。1年次生にとっては初めての発表会、2年次生には最後の発表会となります。発表後も教員と意見交換を積極的に行い、充実した発表会となりました。



第2回姫路大学大学院FD研修会

12月16日（木）15時から「大学院教員による教育研究の成果の共有」というテーマで、HYFLEXにより研修会を開催し、3名の大学院担当教員の発表がありました。それぞれの先生方が取り組んでおられる研究について知る機会となり教員・院生共々大いに刺激を受けました。オンデマンドでも一部配信を行っています。



《 大学院生の声 》

藤原 さおりさん

(博士前期課程1年生 成人・高齢者看護学分野)

現在、福岡大学筑紫病院に勤務しており、2021年4月に姫路大学大学院博士前期課程に社会人学生として入学する。



大学院に行こうと思ったきっかけは？大学院での授業はどうですか？

私自身、勉強することは好きで、常にスキルアップをしたいと思っていたので、以前から大学院での学修に関心を持っていました。しかし、大学院に行くためには仕事を辞めない限り難しいと考えていました。しかし、所属施設の院内会議で姫路大学大学院が紹介された時、「大学院に仕事をしながら行ける」と思いましたし、私にとってチャンスだと思いました。また、私は、がん化学療法看護認定看護師の資格を持っていますが、神戸研修センターで半年間、認定看護師教育研修を受けており、関西に親近感があったことに加え、オンライン授業が可能だったことも魅力的でした。他の大学院でオンライン授業を積極的に実施しているところはまだ少ないと思います。オンラインでの授業は、社会人にとってはメリットが高いと思います。入学当初の1か月は、オンライン授業に慣れる事に時間がかかりましたし、仕事が終わって授業を受けることも多く、タイムスケジュール管理は大変でした。しかし、先生方が私達学生の都合に合わせ、柔軟に授業日程を調整して下さいましたので、ここまでどうにか来れたかと思っています。

印象のあった授業科目は何ですか？

どの授業も新たな学びがありました。特に、看護理論の授業はより知識を深められた授業でした。今までも看護の現場で看護理論は使っていましたが、改めて多くの看護理論が存在すること、看護理論を看護理論家の源泉から学び理解するという貴重な学習をしました。今後、患者のアセスメントや看護実践において、より適切な看護理論を選択し活用していくことが必要だと考えています。

社会人として大学院で学ぶことについて、どうですか。

とても大切だと思います。一人の患者を診る看護師には、様々な知識や技術がアセスメントのエッセンスとなります。“知識や技術は裏切らない”というのが私の中にあり、豊富なスキルは私の武器だと考えていますので、常に学修の機会を求め、チャレンジしていくことは必要だと思います。社会人にとって、職場ではない新たな環境での出会いや学びは刺激がありますし、授業や課題・看護研究など、大変な一面もありますが、私にとってはリフレッシュできる機会にもなっており、大変有意義な時間だと考えています。

認定看護師との違いについて、どうですか？

認定看護師は、講義や実習を通して、半年間集中的に学習を行います。与えられる知識や技術をとにかく習得していくという感じです。しかし、大学院の学修では、さらに自主性・自律性が求められると思います。先生が出される課題やレポートの意図も、どのように自らが捉え、考え、取り組むかを考えなければなりませんし、大学院での学修でさらに求められる点ではないでしょうか。

ディプロマポリシーについて、藤原さん自身はどうですか？

ディプロマポリシー（学位授与の方針）は、博士前期課程では、高度な看護実践専門職業人として、1）人々の健康課題について、理論をもとに科学的に探究でき、研究に関する基礎的能力を身につけている。2）人間に対する深い洞察力と高い倫理観をもち、自己の専門分野を活かし、人々の健康改善・増進に寄与する能力を身につけている。3）あらゆる健康レベルにある人々を包括的に捉え、保健・医療・福祉の場においてリーダーシップを発揮し、高度な看護実践ができる能力を身につけている。を身につけた者に修了を認定し、学位を授与するということですが、現在は習得に向け途中経過の段階であり、ディプロマポリシーを身につけた＝博士前期課程修了と評価して頂けるよう頑張りたいと思います。

《 大学院入学試験のお知らせ 》

博士前期課程では、人間に対する深い洞察力と高い倫理観をもち看護の理論と科学的な根拠に基づき、人々の生活や看護の場において教育力、指導力、研究能力を発揮できるすぐれた看護実践専門職業人を育成しております。また、博士後期課程では、人間に関する高い学識をもち人々の健康と生活の質の向上を目指した支援を体系的・科学的に探究し、独創性のある研究を自立して行うことができる教育・研究者の育成を目指しています。

下記の日程で博士前期課程・博士後期課程の入学試験を実施しますので、姫路大学大学院入学センター（TEL:079-247-7306 E-Mail:nyushi@koutoku.ac.jp）までお問合せください。随時個別相談を受け付けております。

働きながら学びやすいようにほとんどの講義はインターネットを利用して自宅や職場で受講することができます。また、長期履修制度もあり多くの大学院生が利用しています。

* 出願資格認定審査

Ⅱ期 2021年11月22日（月）～2021年12月7日（火）

Ⅲ期 2021年12月8日（水）～2022年1月26日（水）

* 出願期間

Ⅱ期 2021年12月8日（水）～2022年1月26日（水）

Ⅲ期 2022年1月27日（木）～2022年2月17日（木）

* 試験日

Ⅱ期 2022年1月30日（日）

Ⅲ期 2022年2月20日（日）

* 会場：姫路大学（兵庫県姫路市大塩町2042番2）

* 試験科目

博士前期課程

- 社会人選抜入学試験 小論文、面接
- 一般選抜入学試験 英語、看護専門科目、面接

博士後期課程

- 一般選抜入学試験 小論文、英語、面接

編集後記

姫路大学大学院看護学研究科では、ポストコロナの学習形態は対面授業に戻るのではなく、ほとんどの講義は、インターネットを利用して自宅や職場で受講できるようにしております。また講義は、平日の夜間や土曜日などに開講しており、日程は教員と相談のうえ決めることができます。1年に数回開催している研究の中間発表会では、対面、オンラインを併用して実施しています。

さて、新型コロナウイルスの日本の状況は、新規感染者数は激減して、以前より比較的安心して外出するようになってきました。しかし変異株の一つであるオミクロン株が出現し、高い感染力やワクチン効果減弱などの可能性が指摘され、また不安に陥るような状況になってきました。

しかし、インフルエンザと同様に、正確な情報をもとに正しく恐れることが必要だと思います。これまで同様、マスクの正しい着用、手洗い、うがい、三密の回避、換気といった基本的な感染予防対策の徹底とワクチンの接種により、オミクロン株でも今後新たに出現される変異株でも感染を十分防ぐことや重症化を予防することができると思います。

Newsletter No. 6 を発刊し、教育・研究者や地域の人々に姫路大学大学院を身近に感じていただけるよう研究科の情報を引続き発信していきたいと考えております。次号は2022年5月頃にお届けできる予定です。



姫路大学大学院看護学研究科 Newsletter

2022年1月14日発行

■ 編集・発行

姫路大学大学院看護学研究科

〒671-0101 兵庫県姫路市大塩町 2042 番 2

TEL : 079-247-7301

E-mail : daigakuin@koutoku.ac.jp

